

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105057号
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
訪問調査日	平成 22 年 1 月 16 日
評価確定日	平成 22 年 2 月 11 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105057号		
法人名	株式会社 メディコープ		
事業所名	グループホーム おあしす坂之上		
所在地	鹿児島市 坂之上1丁目 47番22号 (電話) 099-284-6636		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成22年1月16日	評価確定日	平成22年2月11日

## 【情報提供票より】 (平成21年12月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	17 人	常勤12人 非常勤5人	常勤換算14.0人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての 1～2階部分		
------	-----------------------	--	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(日額)	400 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

## (4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院鹿児島生協病院 谷山生協クリニック(医科・歯科)
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、錦江湾が見える閑静な高台の住宅地にある。ホーム周辺の畑には、季節ごとの野菜が植えられ、近くの広場は散歩を楽しめる場所である。職員は入居者が自分らしい生活ができるようにと、お互いに声かけ合いながら、チームワークで取り組んでいる。入居者は季節毎の行事・花見・外食・ドライブの他、計算ドリルやパズル・小物作り・カラオケ・園芸等を楽しんでいる。また、医療連携体制も確立されており、家族の安心材料となっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念の見直しが行われ、災害対策では地震想定の実施、地域への協力体制づくりが行われ、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を実施し、ケアの振り返りを行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても検討し、改善が行われている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、入居者の状況や活動内容報告・要望やその解決策・職員の研修内容報告等を行っている。地域住民代表や民生委員・家族の方より意見を聞きながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や運営推進会議・クリスマス会等の行事で、家族の来所にあわせて、意見や要望を出してもらえよう働きかけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の祭りに入居者と一緒に参加したり、市内の長老祭り作品展に入居者の作品の出展と見学、あいご会の資源回収への協力も行っている。また、校区の中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。近所の住民から野菜をもらったり、ホームの行事に来所されたりと地域との交流を大切にしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念に加えて「地域とのふれあい、助け合い、信頼」という、地域密着型サービスを含めた独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示し、全職員のネームの裏に入れ表示している。また毎朝の申し送りやミーティングの後に唱和し、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、入居者と共に回覧板を届けたり、地域の祭りに参加したり、市内の長老祭り作品展に入居者の作品の出展と見学、あいご会の資源回収への協力も行っている。校区の中学校の職場体験学習の受け入れを行う等、地域との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し、ケアの振り返りを行い、質向上を目指している。外部評価の改善項目についても検討改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、入居者の状況や活動報告、要望やその解決策、職員の研修内容報告等を行っている。また地域委員や民生委員・家族より意見を聞きながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と入居者の状況について、情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談員も受け入れ、入居者のサービスの質向上に向けた取り組みをしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、個別欄を設け健康状態や暮らしぶりを報告している。金銭管理については、領収書と出納帳のコピーを送付し、面会時に家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、クリスマス会等の行事で家族の来所時に意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族に紹介して、信頼関係が築けるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、外部研修は交代で参加し伝達講習を行っている。毎月の内部研修や法人内の合同事例検討会・新人研修も行っている。グループホーム連絡協議会や谷山地区のGH勉強会にも多数参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流以外に、数ヶ所のグループホームを職員が見学研修に行ったり、地区のグループホームの勉強会で情報交換を行い、質の向上に向けた取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は、本人や家族と話し合いを持ち、自宅や施設に出向き親睦を深めながら馴染みの関係を作り、安心して入居できるよう支援している。入居前にはホームの見学をしてもらい、お茶や食事を一緒にしながら場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、一緒に料理を作ったり、畑仕事でクワの使い方や苗の支柱の立て方を教わったり、日常の中で一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で、どのように生活したいのかを聞いたり、表情や言動から気持ちを察しながら職員間で情報交換し、本人の意向を重視した支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向や要望を聞いたり、担当者会議で職員の気付きや意見交換を行いながら、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、状態変化に応じて3ヶ月、6ヶ月ごとに行っている。状態変化時の随時の見直しも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら本人の意向にそった通院の支援や、理美容室への外出、自宅までの外出を支援するなど柔軟に対応している。また医療連携体制をとって支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医を受診する支援を行っている。また適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し同意書もある。入居時に家族に説明すると共に、重度化した場合はその都度、話し合いをもち情報を共有し、支援する体制ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員へ個人情報の保護に関する説明を行い、入職時に個人情報保護についての誓約書を取っている。面会カードを個別に記入してもらったり、日々のケアの中で、自尊心を大切にしたい声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、食事や入浴の時間をずらしたり、暮らしをみて買い物希望があれば一緒に出かけている。散歩や入浴など、個々の希望やペースを大切にしながら柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食は、個々の希望に合わせて献立に反映している。野菜の収穫や料理の下ごしらえ・下膳・片付けなどを職員と一緒にしながら、食事が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めていないが、希望者は毎日入浴できる体制をとっている。本人のペースに合わせて日時を変更したり、職員をかえて声かけを行うなど工夫しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、調理・エプロン洗い・下膳等、職員と一緒にしている。誕生月には、本人と職員で外出に出かけている。計算ドリルやパズル等、個々の得意分野を発揮しながら生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩に出かけたり、花見や買い物・ドライブ・外食・自宅までの外出など、希望にそって外出の支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外出したがる入居者には、職員と一緒に外出したりして支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力をもらいながら、避難訓練や消火器の使用方法、地震想定訓練も実施している。地域の方の協力体制もある。スプリンクラーも設置され備蓄も用意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。月1回体重測定を行い、医師に相談しながら食事形態も工夫している。献立は毎月協力医療機関の栄養士にみてもらい、アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やベランダには季節の花が植えられている。台所には流し台が2ヶ所あり、入居者が気軽に利用しやすい作りとなっている。共用空間のタタミスペースでゆっくりくつろげるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドやタンス・布団・テレ・机・椅子・仏壇・時計など、馴染みの物が持ち込まれている。また手作りの作品や写真・観葉植物が飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。